

広島県視覚障害者の問題を考える会
第3回学習会 アジェンダ

期日：2012年8月30日（木）

時間：19:00～21:00

場所：広仁会館

内容

1. 開会あいさつ
2. 福祉分野を中心とした発表、報告（100分）

1件につき、発表10分、質疑5分です。

- （1）広島県内の生活訓練体制についての紹介（馬屋原氏）
 - （2）福山、東広島での取り組み（花木氏）
 - （3）あさひ訓練1センターのサマーキャンプの報告（中村氏）
 - （4）第21回視覚障害リハビリ研究発表大会の報告（奈良井氏）
- 休憩（10分）
- （5）生活の中でのiPadの活用（氏間氏）
 - （6）私の体験と視覚障害当事者団体について（岩佐氏）

3. 告知事項

- ・展示会についての具体的な提案（久保氏）

4. 次回予告

次回は、教育分野です。

10月 日



福山市でのとりくみ

歩行訓練士 花木 瑞美



福山市視覚障害者 地域活動支援センター

平成20年5月開設

- ◆情報提供事業
- ◆ボランティア養成事業
- ◆相談・生活支援事業
相談事業
- ✓ 中途視覚障害者白杖歩行講習会
自立訓練講習会
(パソコン・点字・料理)
- ◆交流事業
- ◆研修事業

中途視覚障害白杖歩行講習会

<平成24年度>

◆グループ訓練（1回・8名）

◆個別面談・訓練

（年間のべ約60回・10名予定）

基本的な白杖操作

自宅近辺

駅前バスターミナル 等

個人の費用負担はなし

事例：1 70代女性

障害等級2級

網膜色素変性症

約10年前に症状が出始め、約2年前
さらに見えにくくなる

訓練希望：散歩

自宅⇄ゴミステーション

訓練実施状況 計6回

- 白杖操作や運動能力に問題はない
- 単独歩行に対する恐怖心がぬぐえず、修了を希望
- 記録媒体をもたない
→ 機器類の紹介
- 視覚利用についてのアドバイス
「あなたは今も見えている」
と言ってくれる人が今までいなかった

所感

- 歩行訓練以外のサポートの必要性
見え方についての相談
目・手の使い方の工夫
便利な用具・機器類の紹介

事例：2 40代男性

障害等級3級

緑内障

約10年前さらに見えにくくなる
うつ傾向（内服）

訓練希望：自宅⇄コンビニ

福山駅バスターミナル等

訓練実施状況 13回予定

- 適切な長さの白杖を使用することにより、白杖を振る回数も適切に
- 羞明のため、昼間は目を閉じている
→ 遮光眼鏡の紹介
- 同世代の話し相手がほしい
- 生活習慣に課題

所感

- 遮光眼鏡の情報提供の機会は？
- 同世代との交流場所は？
- 就労に備え、生活リズム・学習方法の確立

事例：3 50代男性

障害等級1級

網膜色素変性症

約5年前に脳梗塞、後遺症はない

失認はみられない

歩行速度が遅く、すり足

→ 下肢の運動機能に問題なし

1年ほど前からめまい（原因不明）

ケアマネージャーとの連携あり

訓練希望：散歩

訓練実施状況 10回

- 誘導：一般的な歩行速度になった
単独歩行：初回とほとんどかわらない
→ 継続的な歩行機会の確保が必要
- サポートする/される関係の再構築
(自分でできることは自分です)
- 外部とのかかわりを持ち始め、活動的になってきた
- 来年度も希望したいが、支援センターの方針では継続困難

所感

- 思い込みの危うさ
多角度からの視点
- 他機関との連携
- 情報提供の機会
- 新規希望者優先に対するジレンマ



課題

- 柔軟性をもった対応ができれば...
歩行訓練以外のサポート
訓練期間の設定
- 用具・機器類の紹介等、情報提供
の機会
- 他機関との連携



福山市でのとりくみ

歩行訓練士 花木 瑞美



福山市視覚障害者 地域活動支援センター

平成20年5月開設

- ◆情報提供事業
- ◆ボランティア養成事業
- ◆相談・生活支援事業
相談事業
- ✓ 中途視覚障害者白杖歩行講習会
自立訓練講習会
(パソコン・点字・料理)
- ◆交流事業
- ◆研修事業

中途視覚障害白杖歩行講習会

＜平成24年度＞

◆グループ訓練（1回・8名）

◆個別面談・訓練

（年間のべ約60回・10名予定）

基本的な白杖操作

自宅近辺

駅前バスターミナル 等

個人の費用負担はなし

事例：1 70代女性

障害等級2級

網膜色素変性症

約10年前に症状が出始め、約2年前
さらに見えにくくなる

訓練希望：散歩

自宅⇔ゴミステーション

訓練実施状況 計6回

- 白杖操作や運動能力に問題はない
- 単独歩行に対する恐怖心がぬぐえず、修了を希望
- 記録媒体をもたない
→ 機器類の紹介
- 視覚利用についてのアドバイス
「あなたは今も見えている」
と言ってくれる人が今までいなかった

所感

- 歩行訓練以外のサポートの必要性
見え方についての相談
目・手の使い方の工夫
便利な用具・機器類の紹介

事例：2 40代男性

障害等級3級

緑内障

約10年前さらに見えにくくなる

うつ傾向（内服）

訓練希望：自宅⇔コンビニ

福山駅バスターミナル等

訓練実施状況 13回予定

- 適切な長さの白杖を使用することにより、白杖を振る回数も適切に
- 羞明のため、昼間は目を閉じている
→ 遮光眼鏡の紹介
- 同世代の話し相手がほしい
- 生活習慣に課題

所感

- 遮光眼鏡の情報提供の機会は？
- 同世代との交流場所は？
- 就労に備え、生活リズム・学習方法の確立

事例：3 50代男性

障害等級1級

網膜色素変性症

約5年前に脳梗塞、後遺症はない

失認はみられない

歩行速度が遅く、すり足

→ 下肢の運動機能に問題なし

1年ほど前からめまい（原因不明）

ケアマネージャーとの連携あり

訓練希望：散歩

訓練実施状況 10回

- 誘導：一般的な歩行速度になった
単独歩行：初回とほとんどかわらない
→ 継続的な歩行機会の確保が必要
- サポートする/される関係の再構築
(自分でできることは自分です)
- 外部とのかかわりを持ち始め、活動的になってきた
- 来年度も希望したいが、支援センターの方針では継続困難

所感

- 思い込みの危うさ
多角度からの視点
- 他機関との連携
- 情報提供の機会
- 新規希望者優先に対するジレンマ



課題

- 柔軟性をもった対応ができれば...
歩行訓練以外のサポート
訓練期間の設定
- 用具・機器類の紹介等、情報提供
の機会
- 他機関との連携

2012年度島根ワンぱくっ子 サマースクールの報告

2012年8月30日

日本盲導犬協会 中村透

なぜ、実施するようになったか？

2002年、日本盲導犬協会の仙台訓練センターに福島盲学校のPTAの方が10数名施設見学に来所。短期リハ（当時は2週間のプログラム）を開催していることを紹介した。

一人の親御さんから“子供向けはないんですか？”との質問を受けた。

⇒開催することにした

今までどのくらい実施したか？

仙台訓練センター

2003年～2012年 9回実施

*2011年は、震災のため年末にクリスマス会

富士宮訓練センター

2009年～2011年 3回実施

*2012年度は実施せず

島根訓練センター

2009年～2012年 4回実施

2012年度の島根ワンぱく

日時：2012年7月27日～29日（2泊3日）

場所：島根あさひ訓練センター

募集：

4月 第一報発送、教育機関、関係機関など

6月中旬 案内発送、電話受付

（リピーターには直接発送、電話）

*新規申込者への面談

7月中旬 申し込み締め切り

参加者プロフィール

Aくん、小学1年、全盲、療育手帳あり、兄・母

Bくん、小学5年、全盲、三つ子、母、父

Cくん、小学5年、弱視、療育手帳あり、弟、母

Dさん、小学5年、弱視、妹、母

Eさん、小学6年、全盲、妹、母

Fさん、小学6年、晴眼者（契約職員のお子さん）

計5家族、視覚障害児5、兄弟など7 親6

2012年度島根ワンぱくプログラム1

<1日目日>

13:00～ 開会式 自己紹介など

14:30～ 買い物（BQの材料、花火、菓子）
*チーム分けし、集団で行動

18:00～ 夕食

19:30～ 花火

21:00～ 就寝 親は懇親

2012年度島根ワンぱくプログラム2

<2日目>

- 07:00～ 起床
- 07:30～ 朝食
- 09:00～ 海へ 12:00～ 昼食
- 13:00～ 野菜収穫へ
- 15:00～ 自由
- 17:30～ BQ
- 19:00～ゲーム大会・花火
- 21:00～就寝 *親は懇親

2012年度島根ワンぱくプログラム2

<3日目>

- 07:00～起床
- 07:30～朝食
- 09:00～手打ちうどん作り
- 10:30～盲導犬との触れ合い
- 11:30～手打ちうどん切り
- 12:00～昼食（手打ちうどん）
- 13:00～終わりの会（感想など）

ワンパクっ子サマースクールのねらい1

<障害児にとって>

- ・ みんなで遊ぶ
- ・ 身体全体を使う
- ・ いろいろな体験をする

⇒ コミュニケーション力を高める

⇒ 自分ができるところを探す

⇒ 苦手なことを克服する

ワンパクっ子サマースクールのねらい2

<兄弟たちにとって>

- ・ 他の兄弟と遊ぶ
- ・ 集団の中の兄弟の存在を自覚する
- ・ 自分を解放する

⇒ 障害を持った兄弟の存在は、限られた家庭の中だけ、地域社会の中だけの存在ではなく、広く社会的な存在であることを体感する

ワンパクっ子サマースクールのねらい3

＜親にとって＞

- ・他の親と交流し、情報を交換する
- ・専門家集団との交流を持つ
- ・他の子供を見ることによって、自分の子供を客観的にみる

⇒様々な情報を得ることにより、子供の将来像を具体的にイメージする。専門家を活用することをイメージする。

おわりに

おわりの会の時に子供たちに感想を聞いた。障害児たちも、兄弟たちも口々に“楽しかった”と言ってくれた。6年生の女の子は“来年はもう年齢で来れないので、とてもさみしい”とも言った。

⇒中・高向け短期リハへの参加を促す

今後、続けられるよう、努力したい。

第21回視覚障害リハビリテーション研究発表大会

会期：平成24年6月16日(土)、17日(日)

会場：国立障害者リハビリテーションセンター学院

基調講演

「高齢者のリハビリテーション」

江藤 文夫(国立障害者リハビリテーションセンター)

後期高齢者の約半数以上は何らかの障害を持っている。つまり、高齢者のリハビリテーションとは厳密には障害をもつ高齢者のリハビリテーションである。20世紀の医療技術の進歩により、人の平均寿命は著明に延長した。結果、保健医療の目的が生命維持だけでなく生活の質(QOL)を追求する方向に向かうことになった。しかし、欧米ではQOLよりも上の価値として、Heaven(天国)があり、うまく機能している。

教育講演

「障害者福祉施策の動向」

坂本 洋一(和洋女子大学)

障害者自立支援法が4月1日に改正され、利用者負担の一割定率が応能負担となり、かつ上限額を決まった。しかし、居宅サービスと施設サービスの違いで上限が異なることに注意が必要である。また、利用者負担の合算が変更となり、特に補装具も合算の対象となった。

教育基礎セミナー

1. 視覚リハビリテーションと新しいコミュニケーションエイド

尾形 真樹(杏林アイセンター)

iPadの話です。iOS6はこの秋、①Siri②Maps③Accessibilityの改善に期待

2. 光学の基本

山中 幸宏(朝倉メガネ)

据置型ルーペは焦点距離が完全には合っていない。メーカーの倍率は「商品名」

3. O&M(orientation and mobility)のいろは

小林 章(国立障害者リハビリテーションセンター学院)

白杖の起源は1948年アメリカ陸軍病院の軍医リチャード フーバー医師の失明軍人の訓練が始まりである。

一般演題と地域ブロック会でのトピック

岡山県では Smart Site のリーフレットが配布された。相談窓口は5カ所に分散し、医療、訓練、福祉、教育、行政等それぞれが得意分野を受け持っている。高知県では視覚障害者の情報を持っている行政・保健所が中心になって対応をしているので必要な方に適切な情報が行く。よって障害者の取りこぼしが無い。今回の特徴として、高齢視覚障害者関係の演題が6題、東日本大震災関係の演題が5題、iPad・iPhone 関係の演題が9題あった。

生活の中での iPad の活用

広島大学 氏間和仁

視覚障害の状態，特にロービジョンの状態でする生活の上での iPad の活用について，以下の3つの疑問から考えてみます。

【Q1】なぜ，iPad なのか？

コンピュータにはない，“安定性”“操作性”“即時性”の高さ，拡大読書器にはない，“一般性”“拡張性”の高さを挙げることができます。中でも iPad（Apple 社製）は，他の多機能携帯端末にはない“実績”“安全性”を備え，高解像度カメラや液晶画面は弱視者の視覚を拡張するシステムとしてとても魅力的です。

【Q2】iPad で何ができるのか？

1. 文字を読む

データを読む：web コンテンツ，電子ブック（ePub，PDF，DAISY）

印刷物を読む：カメラ機能，OCR

2. 文字を書く

キーボード入力で記録：メモ

手書き入力で記録：

写真で記録

音声での記録

3. 手がかりを得る

カメラで映して（写して）確認

カメラの画像を加工して確認（色の加工，輪郭の加工）

4. 身の回りの道具として使う

キッチンタイマーとして

手書きメモとして

音楽プレイヤーとして

【Q3】今後，どんなことが必要か？

知ってもらふ

専用のツールの開発

ロービジョンリハビリテーションへの導入

広島県視覚障害者の問題を考える会 第3回学習会
発表（6） 私の体験と視覚障害当事者団体について（岩佐氏）

【1／6】

途中で目が不自由になった方のために
新たに、視覚障害で身体障害者手帳の交付を受けた方のために

ひとりじゃないよ

このチラシは、目が不自由になった方が、仲間と出会えるグループを紹介しています。
仲間の皆さんの体験談を聞くこと、「自分だけじゃない」と実感し、ほっとできる居場所を見つける
こと、何かに挑戦してみよう、という気持ちになること、そんな一歩前進を願っています。

2012年（平成24年）7月発行

作成：広島市視覚障害者グループ連絡会

協力：社会福祉法人広島市社会福祉協議会

（広島市中区千田町1-9-43 市社会福祉センター内 電話243-0051）

「広島市視覚障害者グループ連絡会」とは・・・

広島市内で活動する視覚障害者グループが多くなり、各区にひろがっています。そこで平成23年6月から年数回の集まりを始めています。それぞれ、趣旨目的、活動エリアは違いますが、共通していることは「目が不自由である」ということ。そして、「自分たちが活動することで広島を住みやすくしていきたい」、「まだこのようなグループの存在を知らないで孤立している視覚障害者を仲間に迎え入れたい」という願いを持っていることです。それぞれ、独自の活動は尊重しつつ、情報交換を重ねるゆるやかなネットワークです。

—まずは、市内全域の方を対象としたグループです。—

〔全市〕公益社団法人広島市視覚障害者福祉協会 （代表者は川本正行さん）

平成23年4月から公益社団法人になりました。一人で安全に歩くことができることを目指す「中途失明者歩行訓練事業」や日常生活用具や情報通信機器に関する相談に対応する「広島市視覚障害者情報センター」運営などの公益事業を実施しています。会費年額5千円。

お問い合わせ先

事務局（業務時間は平日の9時～17時）

〒730-0052 中区千田町1-9-43 広島市社会福祉センター3階

電話249-7177

Eメール jimush@hiroshimashi.shisyokyo.jp

ホームページ <http://shisyokyo.jp/>

広島市視覚障害者情報センター

中区富士見町11-27 市保健所等合築施設2階（東警察署の隣）

電話240-1220

[全市・県] 広島視覚障害者協議会(代表者は吉沢美年さん)

視覚障害者のバリアである、移動・読み書き・仕事の自由、そして情報障害を当事者の視点で解決をはかってきました。これまで、ワンマンバスの声による車外放送、障害者手帳提示による運賃割引、市の広報の点字およびテープ化、市からの郵送物の点字化、シャレオや新交通システム、JR広島駅などのバリアフリー化、タクシー運賃割引の視覚障害者への適応、音響信号機増設、などを実現させ、貴重な成果を重ねてきています。これからもあきらめることなく地道に取り組んでいきたいと思いません。会費年額8千円。

お問い合わせ先

電話090-4699-3191(吉沢)

[全市・県] 視覚障害者の自立をすすめる会(代表者は佐々木健二さん)

視覚障害リハビリテーションの啓発と実施、中途視覚障害者の自立支援を目的として、視覚障害者、眼科医、ソーシャルワーカー、歩行訓練士、ボランティアとともに活動しています。相談活動、会報紙「自立の芽」発行、「アイアイカフェ」や指編み・料理などの教室、セミナー開催など。会費年額一口千円。

お問い合わせ先 〒732-0023 東区中山東3-2-13

電話289-9399

Eメール s-ken006@go4.enjoy.ne.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/ziritsu55/>

[全市・県] 中途視覚障害者のつどいカナリアの会(代表者は西田昇子さん)

結成から25年を経過した中途視覚障害者の会です。幅広い地域から参加してこられ、勉強会や、親睦を深めるための外出交流会を活発に行っています。毎月90分テープ2本のお知らせを会員に送っています。定例の集まりは毎月第1火曜日(10時~15時)です。会費年額千円。

お問い合わせ先 電話291-4822(西田)

又は西区社会福祉協議会(西区福島町2-24-1 西区地域福祉センター内 電話294-0104)

[全市] 「ハートあい」の会(代表者は宇津木隆夫さん)

「ハートあい」の会は、視覚障害をはじめとする障害者と援助者との共生社会をめざす会です。障害者には、さまざまな困難なことや、悩みなど、特に同じ立場でなければ理解できないことがあります。それらを本音で話せる場を提供していきます。立場の違う人たちも一緒につどい、それぞれの思いを話すことにより、理解を深めていくことができます。その上で、現状の問題点や改善すべきことを出して、それらを解決していく活動を行います。

広島市心身障害者福祉センター(東区光町2-1-5)

広島県視覚障害者の問題を考える会 第3回学習会
発表(6) 私の体験と視覚障害当事者団体について(岩佐氏)

【3/6】

電話261-2333)に毎週火曜と木曜の午前に集まって、バンド活動を行ったり、火曜の午後には、視覚障害者のためのジャズダンスをしています。このほか、旅行などのレクリエーションや勉強会などもしています。会費年額千円。

お問い合わせ先

電話090-4809-2746(宇津木)

—市内の各地域にお住いの方を対象としたグループです。—

〔東区〕 東区視覚障害者 茜とんぼの会(代表は宮野豊子さん)

人生途中で視覚にハンディを持つことになった方たちが「せっかく近くに住んでいるのだから、もっと交流したい」ということで、2006年に発足。群れをなしてスイスイと飛んでいる茜とんぼの姿から、明るく、楽しく、たくましく生きたいと願いをこめて命名しました。定例会(奇数月第2水曜日)、フォークダンス(奇数月第4水曜日、偶数月第2・4水曜日)、いずれも時間は10時から12時、東区地域福祉センターで活動しています。その他不定期で日帰りバス旅行などがあります。会費は特にありません。

お問い合わせ先

電話289-3399(宮野)

又は東区社会福祉協議会(東区東蟹屋町9-34 東区総合福祉センター内)

電話263-8443)

〔南区〕 野菊の会(代表者は柳奥昭栄さん)

南区に住んでいる中途視覚障害者を中心にした会です。毎月第3金曜日の13時30分から南区地域福祉センターに集まり、情報交換や親睦を図っています。年2回のバスハイクもあります。会費は年額千円。

お問い合わせ先 南区社会福祉協議会

(南区皆実町1-4-46 南区地域福祉センター内 電話251-0525)

〔安佐南区〕 ひとみ会(代表者は馬本昭子さん)

安佐南区に住んでいる視覚障害者で結成し、22年間の活動実績があります。毎月1回は外に出かけ、偶数月第2水曜日13時30分からボランティアの人たちと一緒に「交流友の会」をしています。会費年額千円。

お問い合わせ先 安佐南区社会福祉協議会

(安佐南区中須1-38-13 安佐南区総合福祉センター内)

電話831-5011)

〔安佐北区〕 安佐北区 歩みの会(会長は岩佐悦明さん)

“自分たちの力で一歩前に歩みたい”という安佐北区に住む仲間が集まってできた会です。

広島県視覚障害者の問題を考える会 第3回学習会
発表(6) 私の体験と視覚障害当事者団体について(岩佐氏)

【4/6】

外の生活に対する不安と怖れに、家に閉じこもりがちな視覚障害者が、勇気をもって一歩外に出れば、どんな生活が待っているのでしょうか。一人で出来ないことでも、同じ仲間と出会うことで悩みを話したり、体験を披露する中で、少しずつ歩みを進めていけるのではないのでしょうか。

地域で明るく生活するために、日常生活訓練、レクリエーション等を通して行動の範囲を広げ、自立と社会参加を目指していきたい！それが「歩みの会」の願いです。定例会は毎月第2月曜日(10時～14時)。

会費は年額2千円。

お問い合わせ先 電話090-4896-2350(岩佐)

e-mail yosiki25@gmail.com

ホームページ <http://www.geocities.jp/asakitaayuminokai/>

又は口田公民館(電話842-7744)、安佐北区社会福祉協議会(電話814-0811)

〔安佐北区〕 視覚障害者の集い こすもす(代表者は辻村登美子さん)

安佐北区を中心とした視覚障害者の会です。

屋外活動として、森林浴、グルメ探検、施設見学など。研修として、料理・健康づくり、災害予防講座、パソコン勉強会など。社会啓発として、学校での福祉授業やボランティア養成講座、地域のイベントに参加。

定例会は毎月第2・3金曜日。会費は特になく、活動内容によって参加費を出し合っています。

お問い合わせ先

電話815-5507(辻村)

電話090-5700-4228(辻村)

又は、安佐北区社会福祉協議会

(安佐北区可部3-19-22 安佐北区総合福祉センター内)

電話814-0811)

〔佐伯区〕 白い三輪車の会(代表者は保森俊文さん)

広島市佐伯区を中心とした地域の視覚障がい者の集いです。

自立と積極的な社会参加を目的に、会員相互の親睦と生活の向上を目指している会です。毎回楽しくやっています。気軽にご参加ください。定例会は毎月第3水曜日(13時30分～15時30分)。他にパソコン教室やオカリナ教室も開催しています。会費年額千円。

お問い合わせ先

電話090-9736-1203(保森)、

e-mail yasumori-516@fch.ne.jp

ホームページ <http://siroisanrinsya.digi2.jp/>

又は佐伯区社会福祉協議会

(佐伯区海老園1-4-5 佐伯区地域福祉センター内)

広島県視覚障害者の問題を考える会 第3回学習会
発表(6) 私の体験と視覚障害当事者団体について(岩佐氏)

【5/6】

電話 9 2 1 - 3 1 1 3)

—お住いの地域を限定せず、外出や趣味の活動を活発に行っているグループです。—

〔山歩き〕 歩く会「友遊(ゆうゆう)」 (代表者は坂本美智子さん)

視覚障害者が晴眼者会員のサポートで山歩きを楽しんでいます。年間8回の山(さん)行(こう)例会。
視覚障害者全国交流登山への参加など他団体との交流登山もしています。会費年額千円。

お問い合わせ先

事務局：〒731-0211 安佐北区三入6-19-38-8

電話 8 1 8 - 0 2 8 3

〔健康体操・英語〕 視覚障害者のつどい オーロラの会(代表者は柚木眞由美さん)

中区地域福祉センターで健康体操(毎月第2金曜日10時30分~12時30分 8月休み)や、英語
学習会(毎月第2・4月曜日10時30分~13時 1・8月休み)をしています。

お問い合わせ先

中区社会福祉協議会

(中区大手町4-1-1 中区地域福祉センター内

電話 2 4 9 - 3 1 1 4)

〔フォークダンス〕 フォークダンス100 (代表者は柚木眞由美さん)

毎月第3木曜日の13時30分~15時30分 (8月は休み)、西区地域福祉センターで活動し
ています。会費は特にありません。

お問い合わせ先

西区社会福祉協議会

(西区福島町2-24-1 西区地域福祉センター内

電話 2 9 4 - 0 1 0 4)

〔外出〕 中途視覚障害者のつどい ともしびの会(代表者は北崎美枝子さん)

平成元年4月、広島市民病院総合相談室の支援により結成した会です。

福祉バスで月1回、明るく・元気に・楽しく!をモットーに、外出交流会をしています。

定例会は毎月第3土曜日。会費年額1,500円。

お問い合わせ先

電話 8 8 8 - 2 1 7 9 (北崎)

又は広島市民病院へ(電話 2 2 1 - 2 2 9 1 内線 2 3 7 1)

〔テニス〕 ブラインドテニスサークル「のんばーず」(代表者は荒木哲三さん)

日本で生まれたブラインドテニスを通じて、視覚障害者の親睦とスポーツを楽しみ、外出の喜びを体

広島県視覚障害者の問題を考える会 第3回学習会
発表(6) 私の体験と視覚障害当事者団体について(岩佐氏)

【6/6】

感しています。週2回の練習のほか、食事会や福祉バスにて日帰り旅行も。視覚障害の有無を問わず
会員募集中。

会費年額6千円。

お問い合わせ先

電話090-9419-7110(荒木)

—病気や障害別のグループです。—

【網膜色素変性症】日本網膜色素変性症協会広島県支部(略称JRPS広島県支部)

治療法の確立と患者の自立を目指して1994年5月に設立。患者、学術研究者、支援者の三者によ
って構成され、それぞれの立場から色変とうまくつきあっていくために力を出し合っています。県域
の組織で会員112名。会費年額5千円。

お問い合わせ先

副支部長で広島西部担当の荒木哲三さん

電話090-9419-7110

【緑内障】広島緑内障友の会

お電話でご相談に応じています。

お問い合わせ先 代表の藤井秀昭さん 電話090-4140-2992

【盲ろう】広島盲ろう者友の会(代表者は大杉勝則さん)

広島県からの委託を受けて「通訳・介助員養成研修」や「通訳・介助員派遣」事業を行っています。
また毎月定期交流会、コミュニケーション教室、指点字&手話教室などを、広島市中心身障害者福祉セ
ンターを拠点として実施しています。

お問い合わせ先

事務局：〒732-0048 東区山根町28-34-106 広島盲ろう者友の会

電話 264-9919

Eメール Hiroshima-db@hi.enjoy.ne.jp